

# 第1回交流ボッチャ大会 申し合わせ事項

## 1. コート

コートは右図のとおり

## 2. ボール

1)赤ボール6個、青ボール6個、白のジャックボール(目標球)1個で構成される。ボールの表面は革製(人口皮革含む)で大きさの基準は以下のとおり。

重量:275g±12g

周長:270mm±8mm

2)大会では個人所有のボールを使用しても構わない

が、基準を満たしていない場合は主催者が準備したボールを使用する。

## 3. ランプ

1)投球補助具(ランプ)は、ボールを投げるできない選手が勾配を用いてボールをコートに送ることを目的としたものであり、ボールを加減、減速させる機器や照準器をつけてはならない。

2)ランプは最大最長の状態にして横に倒し、2.5m×1m エリア内に収まるような寸法でなければならない。

3)投球する際は選手自らがボールに触れたり、押すなどしてモーションを起こさなければならない。

## 4. 投球位置(スローイングボックス)の配置

ペア戦 …赤ボールを投球するチームが2番・4番/青ボールを投球するチームが3番・5番

団体戦 …赤ボールを投球するチームが1番・3番・5番/青ボールを投球するチームが2番・4番・6番

## 5. チーム構成

1)ペア戦は障害のある方1名以上を含む2名で構成される

2)団体戦は障害のある方2名以上を含む3名で構成される。また、3名のほか1名の控え選手をエントリーさせることができる(計4名の申込みが可)。試合には障害のある方2名以上を含む3名のチームで構成すること。

なお、試合中の選手交代はエンドとエンドの間のみ、その際は審判に申し出ることとする。

## 6. 競技方法

1)試合はペア戦、団体戦ともに予選リーグは1試合2エンド、決勝トーナメントは1試合4エンドで行う。

各チームの投球時間はジャックボール投球を含め1エンド5分とする。

2)1エンドずつの得点を積み上げ、2エンドの総得点で勝敗を決める。

2エンド(4エンド)終了時に同点の場合はタイブレイク(各チーム任意の選手によるファイナルショット制度)で勝敗を決める。なお、タイブレイクでは各チームの投球時間は設定しない。

3)各リーグ内の順位決定については次の順で決定する。

① 勝った試合が多いチーム

② 勝ち試合が同じ場合は、直接対決で勝ったチーム

③ ①②で決まらない場合は得失点差の多いチーム

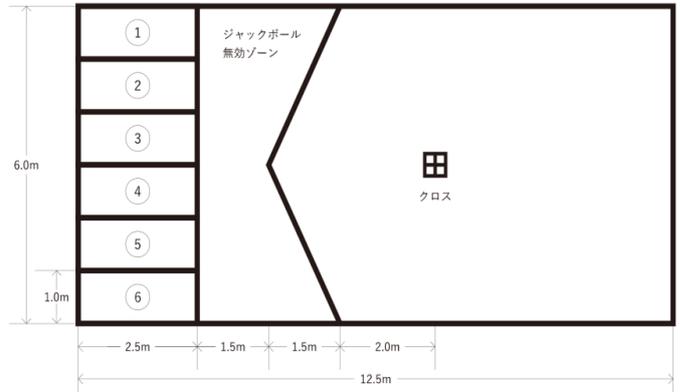
④ ③で決まらない場合は総得点の多いチーム

※①~④で決定しない場合はタイブレイク(ファイナルショット制度)で決定する。

## 7. 試合の展開

1)チーム招集時にキャプテンによるジャンケンにて投球順序(使用するボールの色)を決定する。

2)試合を始める前に、各チーム6球のカラーボールと1球のジャックボールを2分以内で投球練習することが



できる。6球のカラーボールと1球のジャックボールを全て投げ切るか、2分が経過すると練習終了となる。

3) ジャックボールを投球する赤チームの選手に手渡し、審判が「ジャックボールプリーズ」というコールをもって試合開始。

4) ジャックボールが有効だった場合、続けて同じ人が赤ボールを投げる。ジャックボールが無効の場合は青の1番がジャックボールを投げる。

5) 赤の1球目が投球できた場合、青の1球目を投球する。それ以降はジャックボールに、より遠い位置にあるチームが投げる。

6) 両チームが全てのボールを投げ終わったら得点をつける。審判がジャックボールを取り上げた時点でエンドが終了する。 ※2 エンド目は青が先攻(ジャックボール投球)となり同じように試合を行う。

7) スローイングボックス内であればどこから投げても良い。また、自チームの投球指示が出されているときに限り、チーム内(選手同士)で相談しても構わない。

#### 8. ランプ介助者、その他介助者について

1) ランプ介助者は試合中、コートに背を向け振り返ることはできない。また、競技についての助言もできない。

2) その他介助者は選手の移動(車いすの移動、方向転換など)や投球順を助言する等、投球することに対して補助する者とし、競技に介入する助言はできない。

#### 9. 違反行為について(注意事項)

本大会では以下の違反行為によるペナルティスローはありませんが、審判からの声掛けおよび場合によってはリトラクションボール(ボール除去)や投げ直しを行うことがあります。十分に注意していただき、スムーズな試合進行にご協力をお願いします。

・ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補装具が接地した状態で投球したとき。

・審判の指示がある前に投球する。また指示がない選手が投球したとき。

・ランプ介助者が試合中にコートを見たり、ランプ介助者およびその他介助者が競技に介入する所作を審判が認めたとき。

・その他、この申合わせ事項にない状況があった場合、全てその大会主催者の判断が尊重される。